

北海道WGについて

今後の防災対策の検討にあたっての十勝沖地震の取り扱いや、千島海溝沿いで約 500 年ごとに 10 m を超える巨大な津波を発生させてきたといわれている地震（以下、「500 年間隔地震」という。）の取り扱い等について検討するため、北海道WG が設置され、これまで 3 回の会合を開催し検討が進められてきたところである。

これまでの検討で、今回報告したように、一定の成果が得られたところであるが、想定震源域については、更なる課題が残されている。

また、主に津波に関する今後の検討については、他の領域で発生する津波地震の例を参考にしながら検討することが適切と考える。

これらのことから、北海道WG の活動を継続し、

- ・ 1896 年明治三陸地震、500 年間隔地震（約 500 年間隔の津波堆積物に対応する地震）について、同様の性質を持つ地震（1677 年房総沖地震など）を参考にしつつ引き続き検討を行う
- ・ 1933 年昭和三陸地震と同様の正断層型地震による津波の取り扱いについて検討を実施する

こととする。なお、必要に応じて委員の追加を行う。